健和会リハビリテーション部通信　2018年度Vol.2

2018年8月19日（日）広島学園都市大学の谷川良博先生をお招きして研修会を開催いたしました。大手町7名、大手町リハ21名、戸畑けんわ12名、京町2名、他職種3名、リハ実習生3名が参加しました。

研修内容　　1.講義：レビー小体型認知症の食事場面におけるリハビリテーション（PT,OT,ST領域）

2.演習：広島で取り組んでいる食事リハについて。疾患特性と評価の視点も含め、演習を実施。

3.資料提供：多職種連携のための観察の大切さ。観察を量的課題に変え、どのようにケアに活かしていくかをについて資料提示して頂きました。

4.質疑応答

研修後のアンケート結果より

・レビー小体型認知症の患者様が増えてきている中で、症状の特徴、行動観察の仕方等について理解が深まった。

・私たちが見ている行動・症状をどのように読み解くか、ポイント分かった。認知症の方の行動には意味があり、それを探り、どうしてその行動になっているのかをきちんと評価し、対応していかなければいけないと思った。

・食事という一つの会話の中で認知症の方がどういう視点でいるのか、どういう思いをしているのかを考えることが大切で、一人一人の病態も含めて評価していくことが大切だと感じた。